



東北大学

2011年5月16日

報道機関 各位

東北大学大学院環境科学研究科

環境科学研究科 震災復興提言冊子
「先取りしたい、2030年の暮らし」シリーズ
第1巻 明かり編 発行のお知らせ

環境科学研究科では、エネルギーや物資が不足したこの震災後の現在を、地球環境問題に正対することと同等と捉え、エネルギー消費の少ない心豊かな暮らしについて提案する一般市民の皆様へ向けた小冊子を制作しました。

お子様と一緒に親しんで頂けるように絵を多用し、簡潔な言葉と具体的な数値で電力やエネルギーへの意識を高めながら、次代のライフスタイルを提案してみました。

ご希望の団体様・個人様へは送料当方負担にて無料配布いたします。広く市民の皆様にご周知頂ければ幸いです。

■冊子概要

「先取りしたい、2030年の暮らし—エネルギーや資源が十分に得られないときでも心豊かに暮らす法—」
体裁：A5版（ヨコ）12ページ カラー

■今後の刊行スケジュール

月2回刊行、6巻構成（予定）

- ・ 明かり 編（第1巻）
- ・ あそび・くつろぎ 編
- ・ 冷暖房 編
- ・ 家のこと 編
- ・ 食 編
- ・ 外のこと 編

（お問い合わせ先）

東北大学大学院環境科学研究科 震災復興提言ワーキンググループ
電話番号：022-795-7408
E-mail : monobe@mail.kankyo.tohoku.ac.jp

先取りしたい、2030年の暮らし

東北大学大学院環境科学研究科
震災復興提言ワーキンググループ

東日本大震災で、私たちは多くのものを失いました、家族、友達、家、仕事、田んぼ・・・でも、悲しんでばかりられません。私たちにも、そして次の世代にも手渡せる『新しい暮らしのかたち (ライフスタイル)』を創り上げなければなりません。

この震災が教えてくれたもの、それはこれからますます厳しくなる地球環境問題にどのように向き合うのかという事でもあります。エネルギーや資源の枯渇、生物多様性の劣化、水や食料の分配、地球温暖化に代表される気候変動・・・私たちはこのようナリスクを抱え、その結果、2030年頃には文明崩壊の引き金を引くかも知れない、その瀬戸際に居ることも事実なのです。そしてその原因は私たち人間の利便性を求めるための際限のない消費の結果とも言えます。

今、私たちが考えなければならないこと、それは、この際限のない消費をどうやって停止・縮小できるかという事なのです。まさに今回の大震災の試練を乗り越える術(すべ)を見つけなくてはならないのです。そのためには、ライフスタイルのパラダイムシフトが必要です、でも、それは決して我慢することではありません。心豊かに暮らしながら際限のない消費活動を停止・縮小させるための知恵を今こそ結集する必要があるのです。

東北電力が供給できる電力は震災前よりも大きく減少しています。そんなエネルギーで心豊かに生きられるのでしょうか？ これこそ新しい挑戦なのです。例えば、家族団欒の時間が出来るとエネルギー消費は17%も下がるのです、では、そんな時間をつくるためにはどんな工夫がいるのでしょうか・・・。

沢山のエネルギーをつくるよりも、ちょっと工夫してエネルギーを使わない豊かな暮らしを考えたい、今あるエネルギーを無駄無く暮らしの中で活かしたい、今まで捨てられていたエネルギーを大事に使ってみたい・・・そんなことを考える切っ掛けにこの冊子がなればと思っています。

みんなで知恵を絞って、ワクワク・ドキドキする『新しい暮らしのかたち (ライフスタイル)』を考えてみましょう。それは2030年が少し早くやってきただけの話なのですから・・・そしてそれを実現することが、被害を受けた多くの方にも報いる事だと思っております。